

3 邑楽町第五次総合計画後期基本計画策定に関する審議会答申書

審 議 会 答 申 書

平成22年11月24日

邑楽町長 金子正一様

邑楽町総合開発計画審議会
会長 相場一夫

邑楽町第五次総合計画後期基本計画について（答申）

平成22年10月8日邑企発第71号をもって諮問のあった、邑楽町第五次総合計画後期基本計画について慎重に審議した結果、次のとおり答申します。

— 答 申 —

平成18年に策定された「邑楽町第五次総合計画」は、町の将来像を「やさしさと活気の調和したまち“おうら”」とし、その実現に向けた行財政の適正な運営を行い、住みよい町づくりに努めてまいりました。この「邑楽町第五次総合計画」では、町づくりの基本的な指針を示す「基本構想」の目標年次を平成27年度（10ヶ年）に設定し、この「基本構想」における将来目標等の実現に向けて、「基本計画」を5年ごとに前期と後期に分けて施策を推進し、必要に応じた見直しを行うこととされています。

「前期基本計画」では、生活環境の整備をはじめ、福祉・教育の充実、産業の振興、都市基盤の整備など行政全般にわたり、住民の参加と協力により計画的な施策の推進がなされ、一定の成果を上げることができました。この間、人口減少社会の到来、少子高齢化の進行、地方分権の進展、環境問題への意識の高まり、高度情報化社会の到来、さらに世界的な経済不況など、社会経済情勢は日々刻々と変化しています。

「前期基本計画」の計画期間の終了を受けて、町を取り巻く環境の変化や前期基本計画に基づく施策の推進状況等を踏まえ、新たに「邑楽町第五次総合計画後期基本計画」を策定し、今後の町づくりの指針とすることは、誠に意義あることといえます。

本審議会では、諮問された計画案について慎重に審議を重ねました。その結果、下記事項に配慮することを要望し、「邑楽町第五次総合計画後期基本計画」がおおむね妥当であると認めたので答申します。

なお、日々刻々と社会経済情勢が大きく変化する中、常に現況分析と課題整理を行い、時代に即応した柔軟な態度で各種施策を選択・実施していくことが重要であります。計画

の推進にあたっては、住民の理解と協力はもとより、積極的な参画と行政との協働により、また、国・県及び関係機関との緊密な連携を図り、社会情勢の変化に的確に対応されることを要請します。

— 記 —

「後期基本計画」について

「邑楽町第五次総合計画」では、町の将来像を「やさしさと活気の調和したまち“おうら”」とし、その実現に向けて行政運営がなされていますが、「後期基本計画」の施策実施にあたっては、以下の点に配慮を求めます。

— 各項目に対する意見・要望 —

「後期基本計画」の各項目に対する意見・要望は次のとおりであり、計画の実施に十分な配慮をお願いします。

「後期基本計画」について

第1章 自然環境を守りつつ、計画的な土地利用を進めます

- 1) 地球温暖化対策について、行政が先導役となり、地域社会への啓発活動に努めていただきたい。
- 2) 大型店舗誘致のためにも、国道沿線を市街化区域としていただきたい。
- 3) 町の活性化のためにも、市街地に隣接している地域の市街化区域を拡充していただきたい。
- 4) 一極集中を解消し、周辺地域の土地利用を考え、大型店舗の誘致等による消費者の町外流出防止を検討していただきたい。
- 5) 優良農地の荒廃が目立ちます。職業としてだけでなく、気軽に農業に親しめるような支援体制をつくり、優良農地の保全に努めていただきたい。

第2章 生活を支える都市基盤を整えます

- 1) 主要地方道足利邑楽行田線の東武鉄道小泉線踏切の早急な拡幅と安全対策をお願いしたい。
- 2) 北関東自動車道の全面開通に伴い、主要な幹線道路の拡幅・整備をお願いしたい。
- 3) 子どもや高齢者が安心して外出できるように、歩道や歩道橋の整備をお願いしたい。

第3章 安心して快適に暮らせる生活環境をつくります

- 1) 過疎化の進んでいる地域に、町営住宅や共同住宅の建設を検討していただきたい。
- 2) ゴミの分別処理啓発のためにも、子どもから大人までを対象とした研修会やイベントを開催していただきたい。
- 3) 不審者の目撃情報も度々発生している上、通学路の整備も十分とは言えません。このような状況の中、遠方の児童にはスクールバスの検討をしていただきたい。

- 4) 近年、高齢者などが巻き込まれる事件や事故が多発しています。地域全体で社会的弱者を支える仕組みを構築していただきたい。

第4章 やさしさと思いやりのある健やかな暮らしを支えます

- 1) かかりつけ医とともに、高度な医療施設の整った総合病院の確保など、地域医療の充実に努めていただきたい。
- 2) 少子化対策として、子どもを安心して産み育てられるように、産科、小児科の充実に努めていただきたい。
- 3) 救急患者のたらい回しが大きな問題となっています。邑楽館林地区の救急医療の体制づくりを行っていただきたい。
- 4) 人口増加のためには、女性が安心して暮らせる町にしなければなりません。その一つとして、子宮頸がんのワクチン接種補助制度(無料化など)の実施をお願いしたい。
- 5) 健康づくり推進のために、保健師等の専門家と住民との協力体制を構築していただきたい。
- 6) 今後も医療費や介護給付費の伸びが予想される中、積極的に予防的事業を推進していただきたい。
- 7) 子どもから大人までが受講できるようなボランティア講座を開催し、地域福祉の充実に努めていただきたい。
- 8) 民生委員・児童委員、社会福祉協議会、ボランティアなどによる「高齢者の孤立化防止」のためのネットワークづくりを検討していただきたい。
- 9) 高齢者の生きがいづくりのためにも、就労支援などを行い、活躍の場を提供していただきたい。
- 10) 障害者や高齢者の施設不足は深刻です。安心して生活を送れるように、既存施設の整備充実に回りながら、障害者や高齢者に対応した多目的施設(総合福祉センター)構想を検討していただきたい。
- 11) ノーマライゼーション実現のために、障害者と健常者が交流を深められる場を設けていただきたい。
- 12) 少子化対策として、行政主催の結婚プロジェクトを積極的に推進していただきたい。
- 13) 少子化対策として、保育園等の受け入れ施設の充実に努めていただきたい。
- 14) 児童虐待については、深刻な社会問題となっています。住民への啓発活動の充実、関係機関との連携や相談窓口の明確化に努めていただきたい。
- 15) 介護相談のできない高齢者の把握方法を検討していただきたい。
- 16) 今後も要介護者の増加が見込まれますが、適切な対応をお願いしたい。
- 17) 医療費抑制のために、正しい受診方法等の啓発活動を行っていただきたい。

第5章 創造性と個性を大切にした教育・文化を育てます

- 1) 子どもたちの健全育成のためにも、各種団体の支援強化を図っていただきたい。
- 2) 生徒数の減少により、部活動に影響が出ています。合同チーム編成の体制づくりを検討していただきたい。
- 3) 部活動の指導に、民間の指導者を積極的に活用していただきたい。

- 4) 全国的に地産地消の運動が行われていますが、町の学校給食にも、積極的に地場産品を使用していただきたい。
- 5) 東毛地域は、全国でも有数の酷暑地域です。熱中症対策として、冷房設備を小中学校に設置していただきたい。
- 6) 社会教育施設の拠点となる施設を検討していただきたい。
- 7) 障害者や高齢者が安心して利用できる、社会教育施設の整備に努めていただきたい。
- 8) 町民体育館では大規模な大会も開催していますが、現在の状態では手狭で老朽化も進んでいます。レベルの高い大会を開催すれば、小中学生の良い見本にもなりますので、総合体育館の建設を検討していただきたい。
- 9) 子どもたちが心の豊かさや感受性を育むための機会を積極的に提供していただきたい。

第6章 活気とにぎわいのある産業活動を支援します

- 1) 国の動向を考慮した、農業生産の振興と整備に努めていただきたい。
- 2) 農作物においては、新たな町ブランドの開発と同時に、市場の開拓を検討していただきたい。
- 3) 異常気象をはじめとした、天災に対する支援強化を図っていただきたい。
- 4) 農家の高齢化が深刻な状況にあります。担い手の育成と同時に、今後の農家のあり方について、指針を示していただきたい。
- 5) 農業用水路・排水路の現状を把握し、問題点の改善を図っていただきたい。
- 6) 工業団地を造成して、積極的な企業誘致を行っていただきたい。
- 7) 行政と地元商工業者との意見交換会を行っていただきたい。
- 8) 中小零細企業への支援強化を図っていただきたい。
- 9) 1社1技術を取得した企業への支援強化を図っていただきたい。
- 10) 大型店舗への購買力流出が懸念される中、小規模商店への支援強化を図っていただきたい。
- 11) あいあいセンターの今後の活用策を検討していただきたい。

第7章 心のふれあう対話の地域社会をつくります

- 1) 少子高齢化を考慮して、行政区改革も検討していただきたい。
- 2) 個人の孤立化や犯罪防止のためにも、コミュニティ活動の活性化に住民との協働で取り組んでいただきたい。

第8章 的確な行財政運営と住民参加を進めます

- 1) 職員によるプロジェクトチームをつくり、各分野の方向性を検討していただきたい。
- 2) 事業の進捗状況などを公開し、住民に分かりやすい行政運営に努めていただきたい。
- 3) 住民の生活充実のためにも、自主財源の確保について検討していただきたい。
- 4) 財源確保の一つの方法として、合併も検討していただきたい。
- 5) 地方交付税に頼るのではなく、抜本的な事業の見直しも行っていただきたい。
- 6) 町づくりを推進していく中で、住民の意識調査をはじめとした、広聴の部分重視

した行政運営をお願いしたい。

第9章 計画の実現に向けて

- 1) 本計画の進行管理・評価の仕組みを確立し、実効性のある実施計画に努めていただきたい。
- 2) 本計画の進行管理は、社会情勢を考慮した柔軟な対応をお願いしたい。